

聖金曜日（主の受難）の説教

金 大烈 神父 2011年4月22日（金）

《一善い関係を持ちましょう》

昨日最後の晩餐を行い、時間的に言えば今日の午後3時ごろイエス様が亡くなった、という典礼に今、私たちは与っています。そしてこのミサは、どうしたら亡くなられたイエス様の御心、その痛みに与れるのか、そういう心を持って与ります。

イエス様はなぜこの世に来られたのでしょうか。一言で言えば、あまりにも人間が人間らしくない生き方をして、たくさん罪を犯しているのです。もどかしく思われた神様が、一人息子であるキリストを送ってくださった、ということです。そして人間が犯した数えきれない罪を全部背中に負って、イエス様は十字架の道を歩まれたのです。皆様もそのように勉強したではありませんか。

もっと違う角度で考えてみましょう。結局、イエス様に来られたのは、人間のためです。皆様は漢字をよくご存知でしょう。外国籍の人でも、このくらいの漢字ならば書けると思います。『人』を表す漢字は、2本の棒で出来ています。2本の棒が支え合いながら生きるのが『人』である、という意味です。1本の棒だけでは倒れてしまいます。『人』というのは関係を意味するのです。関係がなければ、人は人になれないのです。『人間』というのは、「人の間」です。人間は人と人の間にいる時に人間らしい姿を保つことができるのです。

イエス様がこの世に来られた理由は、ただ一つです。人間のためです。もっと簡単に言えば、人間の関係のために来られたのです。

関係というのは、大きく分けると三つに分けられます。

- 一つ目は、神様との関係。人間はそれを崩しました。
- 二つ目は、人と人との関係。滅茶苦茶です。
- 三つ目の関係は、神さまと人間以外の全てのものとの関係です。この関係も、いつも人間が中心になって全部駄目にしてしまいました。

一つ目の神様との関係では、人間は、自分が神様によって作られたこと、全ては神様からいただいているものであることも忘れて、いつも神様を責めてばかりでした。そして神様の代わりに他のものを探して来たのが、人類の歴史でした。いつも「幸せ、幸せ」「幸福、幸福」と探しながら、結局殺し合ってきた歴史が私たちの歴史でした。

二つ目の人との関係は、神様の目で見れば、人間の幸せというものは関わりの中で作られるべきものです。それなのに、人間はその関わりを全部崩しているのです。そのような世界を見る神様はどのくらいもどかしい思いをされているのでしょうか。

三つ目の人間と神様以外との関係というのは何でしょうか。たとえば、この美しい地球との関係。人間はそれを欲のために全部壊してしまいました。昨日の説教でも申し上げたように、わがままな考え方で、この地球を全部傷めてしまったのです。なぜ地震が起こるのでしょうか。なぜ津波が起こるのでしょうか。ある意味では、全ての人間のせいだと私は思います。

これらの関係のためにイエス様が来られて、まことの関係はどのような態度で持つべきかを見せようとされたのでしょう。他の方法はありませんでした。たとえば、人間はよく「悪いことをする者が全部いなくなれば、良い者だけが残ってこの世の中が平和になるのだろう」という考え方をします。しかし神様は、そのようなおろかな方法は選びませんでした。神様は、「いや、そうではない。本当に正しく生きたかったら、自分の命を捧げなさい。」とおっしゃっているのです。「この世の中のまことの平和、幸せというものは、各自の十字架を負おうとする心が集まらなければ絶対に実現できない。」とおっしゃっているのです。

花畑に雑草が生えてしまうと、醜くなります。雑草は取り除いて、花だけ残したくなります。しかし、抜いても、抜いても、生えてくるのが雑草です。福音というのは、雑草を無くそうとするエネルギーで、花をもっと強くたくましく育て、雑草に負けないようにすることを望んでいるのです。しかし、今までの人類の歴史はいつも逆でした。良いことを育てるより、悪いことを裁く歴史でした。私たちはどうでしょうか。日常の生活の中で、裁くことが多いのでしょうか、褒めることが多いのでしょうか。おそらく、批判的な目で見ることが多いのではないのでしょうか。しかし、そのような生き方では、イエス様が2000年前に私たちのために命を捧げた意味を生かすことにはなりません。

私たちが涙を流すこと、笑うこと、全てのことは、『関係』の中にあります。皆様が関わっている『関係』の数は数えきれないのでしょう。親子の関係、夫婦の関係、友達の関係、いろいろな関係の中で私たちは生きています。その関係が上手ならばその人は幸せな人、その関係がいつも苦手で下手ならば、その人はいつも悲しい人、虚しい人になります。

結局、福音というものを一言で言い表せば、「善い関係を生きてほしい。善い関係を作ってほしい。」ということになるのでしょう。

イエス様が見せてくださった全てのものは『関係』のためでした。神様と人間の関係に神様が先に責任をとったのです。「人間が崩したあらゆる関係は、やり直さなければならない」という心で、ご自分が先に杯を飲まれたのです。

よく考えてみてください。何か問題にぶつかった時、自分が損をしたくなくて一生懸命に何とかしようとしたのではありませんか。少し損になってもよいから、相手のために何をすべきかを考えたことはほとんどないのでしょう。私たちは、頑張れば、神様と一番似ている心を持つことができます。しかし悪魔はそれをいつも妨げようとしています。いつも悪魔の心に似させようと誘惑しています。

本当に幸せになりたければ、全ての関係に最善を尽くしましょう。お金との関係にも正しい関係を持ってください。全ての関係に対して、私たちが正しく教えてもらったとおりにしようとする心があれば、聖霊様は導いてくださいます。

みんな幸せにならなければいけません。その唯一の方法は、イエス様が見せてくださった方法です。私たちも同じ方法で生きようとする心が必要ではないかと思います。

そういう意味では、今日は悲しい日ではありません。分からなかった正しい道が紹介された日です。その通りに生きているかどうか、それが私たちの問題です。

ありがとうございました。